

調査会 第1回～第3回会議のまとめ

○第1回会議

日 時:令和6年11月11日(月)9:30～10:45

場 所:第1委員会室

出席者:委員6名全員出席

傍聴者:一般1名、報道1社、議員2名

議題:議員定数・議員報酬の現状と課題(意見交換)

(1) 事務局からの説明

- ・現在の議員定数および報酬額(議長、副議長、議員の区分ごと)の説明。
- ・過去の議員定数および報酬の変遷と、近隣自治体との比較データの提示。
- ・彦根市の人口・財政状況についての説明。

(2) 委員からの意見

- ・社会情勢の変化に鑑みながら、その時その時にふさわしい定数を考えていくのは当然のこと。
- ・今日のインフレや物価高等に鑑みれば、このままでいいのかといった議論もしかるべき。
- ・類似団体や県内の他市と比較すると、彦根市議会が極めて定数が多い、少ないとか、報酬が多い、少ないという状況にはないと感じる。
- ・議員の皆様一人ひとりが、生活も成り立ち、きちんと政治活動をしていただくためには、この水準のままでいいのか。
- ・彦根市の財政状況は極めて厳しい現状にある。単純に報酬を上げることになれば、財政上、今それをするべき状況なのか等の厳しい批判や指摘をされる可能性がある。
- ・報酬を上げるならば、その財源を捻出するために定数を削減したうえで、その範囲において報酬を上げるなどすることにより、市民の理解をいただくということが非常に大事。
- ・議員報酬について、手取りの額が平均でどれくらいか、資料があると検討しやすい。
- ・彦根市の全体の財政を大まかに把握しつつ、定数と報酬を考える方がよい。

○第2回会議

日 時:令和6年12月19日(木)9:32~10:35

場 所:第1委員会室

出席者:委員6名全員出席

傍聴者:一般1名、議員5名

議題:議員定数および議員報酬にかかる協議

(1) 事務局からの説明

- ・彦根市の財務諸表(貸借対照表、行政コスト計算書、資金収支計算書など)について説明。
- ・市の人口推移や議員構成(年齢・性別・職業・経歴・政党別・地域別)について報告。
- ・議員の公務実績や活動内容、報酬・手当の手取り額等について説明。
- ・県内他市(直近で改正があったところ)の状況について説明。

(2) 委員からの意見

1. 議員定数について

- ・資料などを確認したうえで、定数については少し減らしてもよいのではないか。
- ・経費削減の観点から議員定数を減らすというのは筋違いであり、本来なら財政とは切り離して考えていく問題。
- ・議員には少数意見も拾ってもらわなければ困るので、本来なら維持と思っているが、市の財政状況などを考えると、他市町と照らし合わせながら、減の方向で考えていかなければならないと思う。
- ・彦根市はそれほど人口が減っているわけでもない中、定数を下げると各議員の負担が増えるかと思うが、今の財政状況を考えると、何かしら手を打たなければならない。
- ・減らすとそれだけのメリット・デメリット、現状維持でもメリット・デメリットがあるので、簡単に減らすか増やすか等は言えない。

2. 議員報酬について

- ・彦根の財政状況等を考えると(上げるのは)難しい。
- ・議員報酬については上げるべき。物価高に実質賃金が追い付いていない現状がある。
- ・議員は社会保険の加入についても大変な面があるように思う。
- ・議員の労力に比べて手取り額が少し少ないというイメージを持った。報酬はずっと変わっていないので、もう少し上げてよい。
- ・現在の市民感情を考えると、報酬を上げるとなった場合、それなりに市民の理解を得ないといけない。議員が公務以外で何をしているのか、どのような仕事をしているのかを知れると、市民の理解を得るという面ではよいと思う。
- ・これからできるだけ若い人が市政に関わっていただくということを考えると、モチベーションと

いうのも必要ではないかと思う。

3. 議員活動の負担と役割について

- ・ 地元だけでなく、彦根市全体のことを大局的に見ることができる議員が多くなってほしい。
- ・ 市民の意見が議員の労力だけでなく、もっと多く、簡易にくみ上げられる仕組みやシステムを考えた方がよい。
- ・ 一市民として、議員の活動に関心を持たなければならないなということを改めて感じた。

○第3回会議

日 時:令和7年2月7日(木) 9:29~10:29

場 所:第1委員会室

出席者:委員5名出席 (1名欠席)

傍聴者:議員4名

議員定数および議員報酬にかかる協議(その2)

(1) 事務局からの説明

- ・ 議員の活動実態に関するアンケート結果の報告。
- ・ 定数と報酬を変化させた場合の予算の影響をシミュレーションした結果を説明。
- ・ 直近で改正を行った県内他市の状況について、意思決定の背景とプロセスを説明。

(2) 委員からの意見

1. 議員定数・議員報酬について

- ・ 定数について、いきなり4人削減は多すぎるので、2人削減して22人程度が妥当。報酬は、全国平均の44万円と、現在支払われている40万5千円との間の額が42万2,500円なので、その辺りが妥当と考える。
- ・ 定数削減によって財源を生み出すところまで必要ないので、1人減までを限度と考える。報酬は、今ここで上げなければいつ上げるのかと思っている。極力上げられるところまで上げるべき。定数を2名減とするならば、現在支払われている議員に関する経費の総額内で賄えるという試算が出ているので、44万円でよいと思う。
- ・ 世間が賃上げ等で上がってきている中で、議員の報酬が上がっていなかったというところは見直さなければならない。しかし、彦根市の財政状況は非常に厳しいため、定数を変えずに報酬を上げるのは難しい。定数を削減するなら、2人削減で22人がよいと思う。最低限17人は必要。若い人にどんどん立候補していただき、議員になっていただければ、SNSや情報収集のあり方も変わってきているので活動範囲も広がるので、20人でもよいかという思いはあるが、果たしてそこまで減らしてしまってもよいのかというところ。
- ・ 議員活動のあり方がこれから変わっていき、今までと違う方法で市民の意見が吸い上げられるのであれば、現在は慎重に考えて、1~2人程度の減が妥当。これから情勢が変わっていけば、もっと少ない人数で効率よくできるかもしれないが、急には難しい。ただ、市町村合併を伴わない中での定数の変更なので、きちとした理由が必要。
- ・ 報酬に関しては一市民としてみれば、現在の額は恵まれていると思う人もいるかもしれないが、仕事の内容や自己研鑽していただくことや、私たちの意見を市政にしっかり伝えていただけるのであれば、上げていくべき。これから若い人たちがたくさん手を挙げていただけるような環境を私達が作っていかなければならない。滋賀県のトップを目指せるかということ、財政状況を考えて難しいので、真ん中を取るというのは一つの案としてよいと思う。

- ・ 全体的な人口減少に比例して、定数も考えていくべき。

2. 議員活動の負担と役割について

- ・ 政務活動費は今回検討の対象にはなっていないが、合わせて見ていくという側面も必要。調査研究や研修にぜひ使っていただきたい。足りない部分は報酬から支出しているのであれば、報酬を改定しなければならない理由の一つになる。
- ・ 議員は誰にでも出来ないやりがいがある仕事だと思うので、定数・報酬の議論に関わらず、そういった活動をしていただいて若い方々に魅力ある姿を見せていただきたい。

4. 答申の方向性

「定数削減をするならば、2名程度まで。報酬については、42万円程度が望ましい。」